

眼的視野に立って、しかも総合的なシステム的な見直しと前進を行うことが大切である。不況の今こそ次の飛躍前に備えて布石を打つ好機と考えられ、試練を自助努力で乗り切る毎に強く逞ましくなりたいものである。*勿論*逆転的縦横的な発想思考での見直しも必要であろう。例えれば業際的学際的な見直しの一例として、研究開発部門では総ての専門家の集合体組織で抜本的に推進したり、冬の時代を迎えた国立大学でも大学院を中心とし、教養部その他全学部の横断的な組織改革やカリキュラムの改編、自己評価システムの確立等の動きが活潑化している。現在こそ

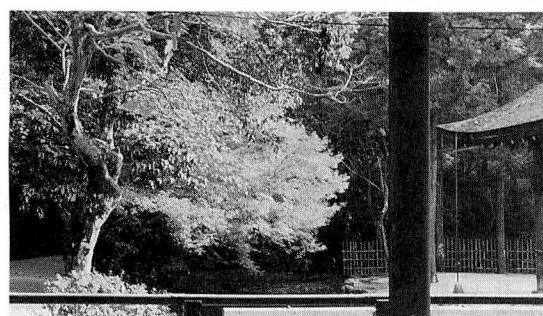
我が国は90年代半ばに迎える新たな世界的成長の鍵を握っている。いつも卒業は出発点であり新たなる挑戦の心を持つこと。

1. 人生には卒業が何回もあるが、あれこれ取材した事を次に略記することにしたい。

2. 定年後の人生設計を早めに立てておくこと。人生80年時代、若い頃から仕事以外の生きがい、目



壊後從来軽視されていた物作りの重要性が見直され、理工系のメカ一離れも元へ戻ってきている。更に先般の政府の「生活大図5ヶ年計画」にある個人の消費構造や意識の変化の兆しも豊かな暮の見直しの機会と考えたいものである。尚過日開かれた京大経済研究所の会合で、来世紀文明の形として、簡素なライフスタイル、リサイクル、省エネルギー、製品寿命の長期化等に基づく「メタボリズム（代謝文明）」が提唱された。例えれば車や家電製品のモデルチェンジ期間の見直し、使い捨て文明からの脱皮と環境との共生等の企業行動、更に消費者の物や金銭を大切にする意識の在り方が重要な要素である。



以上いさか堅苦しい話を述べたが、会員の皆様が現在の冬の時代を夢と希望と実行力をもつて、明るい春の時代に向って前進してほしいものである。

話は變つて今回は健康問題、特に中高年令者の心の健康について明るい春の時代に向つて前進してほしいものである。

シャープ株式会社 <small>取締役社長 内山正太郎</small>	フジテック株式会社 <small>代表取締役社長 藤原菊男</small>	関西電気保安協会 <small>理事長 矢森智</small>	京都大学 <small>電気関係教室 教官一同</small>
---	---	---	---

迎

春

一九九三年一月一日

的意識を持つて余暇生活の設計勉強をする。例えは楽しんでやれる趣味を見付けること。楽しんでやれる生きがいには特別な才能は必要ない。何れにしても誰でも会社人間である前に一個人であることを忘れないで、仕事をやりながら自分の夢や希望を実現出来るよう努力することが大切である。

3. ストレスは一種のアルコール中毒のようなもので、自分がこれに罹つたと思われる時は、自分なりのリラックス法、スポーツやレジャーで気分転換や息抜きをする。一日一度は頭の中を空っぽにして仕事から離れて身心をリフレッシュさせる。酒に頼らず(小量)

はよいが孤独にならず、談笑、カラオケや唱歌の暗唱もよい。

4. 会社人間への批判が強まって、家庭が今変容してきて、夫婦親子関係が見直しされている。健全な家庭像が変つてきている。ここにきて、やはりコミュニケーション、対話、談笑、相互の助け合い、家事手伝い等にも慣れておくことも大切であろう。何れは夫婦一人だけの生活になるが、夫婦はバランス関係を保つことが大切で、家事や趣味も共に楽しめることが望ましい。年に二三回ぐらいは夫婦二人旅を楽しむこと(筆者宅では犬猫ペットや植物が多いため、いわば夫婦)で釣瓶旅行しか出来がないダブルローズカップル(ばらの集まりに夫婦で出席し夫婦唱和を心掛ける等縦と横の人脈づくりに努力することもお勧めしたい。

5. 高令者も朗人、明老人、笑老人そして喜楽老人になることや、手を動かすこと、頭を使うこと、何でも好奇心や興味を持ち、例えば自敍文や旅行記等の原稿を毎日少しづつでも書いておくことが望ましい。(筆者は75才位から漸くワープロを何とか使いこなせるようになった)人生完璧主義より80%以下主義が大切で、(勿論食事も偏食せず八分目以下に)過ぎたるは及ばざるが如しと考えている。

以上心の健康についての私見を



について京大広報No.429の山口名譽教授(数学)に依ると「カオス」は数学的な言葉で、確率論と全く無縁であって、予見不可能であることを特徴とする数学的な決定論である。

生物は予期しない変化に対応するため、一種のデータラメを発生するような仕掛けをもつて用意しておかなければならぬ、これがカオスの意味であろう。また学者、技術者、芸術家が新しい知見や、新しい物、新しい美を創造する時、同じような無数の試をして今までの観念を打ち破ろうと試みる。これこそ生

物としてのカオスであろう。その時重要なのは、一種の文法をもつたデータラメも自由に取り出す必要がある。

◎追記B

京洛だよりに代えて筆者が昨年

晩秋の頃撮ったスナップ写真を掲載しておく(カラーでないのが残念であるが)

① 加茂川上流北大路橋附近にて
「午後3時頃琵琶湖へ飛び返る前のユリカモノの群れ」

② 上加茂神社附近にて
○「神殿と紅葉」
○「七五三詣の家族」

年頭所感

関西支部長 森井清二

新年明けましておめでとうございます。

内外ともに政治・経済の混迷が続くな中、新しい年を迎えたが、

洛友会の皆様におかれましては愈々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、今年は、遺伝子の本体とされるDNAの二重螺旋構造が解

明されて丁度40年になりますが、私の携わっております電気事業に

ついて、生体メカニズムに擬して少しく思うところがござりますので、雑感を述べてみたいと思いま

す。

ご高承のとおり、電気事業では

発送変配電設備が一体となって有

機的なネットワークを構築してお

松下電器産業

株式会社

千代田化工建設

株式

日新電機株式会社

代表取締役社長 田中 康夫

S C C

株式会社
取締役社長 松尾 三郎

宇宙技術開発

株式会社

取締役会長 松尾 三郎

電子開発学園

理事長 松尾 三郎

りますが、ひとたび異常が発生しますと一瞬にして巨大なシステム全体に波及しかねません。従つて、これら諸設備については、常日頃から「健康診断」を行い、「攝生」に努めざるなど予防保全をなくしておりますし、また、避け難い不具合に対してもこれを拡大・長期化させないように備えるとともに、とくに安全系システムについては、ハード・ソフト両面から、幾重にもバックアップ機能を施しているわけであります。

そこで今更ながら感心しますのは、自らの故障を自ら発見し、自ら治癒し得るという生物の修復能

力の不思議であります。例えば、人の骨髄に潜む血球の幹細胞が、生命活動を維持するため、絶えず球細胞に必要に応じて分化すると、赤血球や血小板など七種類もの血球細胞を保有しているわけであります。その精緻さには到底及ばないとしても、こうしたソフトでしなやかな生物系システムを何とか工学系システムに織り込むことができないか、私が夙に念願して止まないところであります。

折しも、人の遺伝子を構成し30

億個にも及ぶという塩基配列などを解明しようというビッグ・サイエンス・プロジェクト「ヒトゲノム計画」が世界規模で始まっています。最終的には、遺伝子一つひとつをとりましても、生命体は非常に柔軟で巧妙なバックアップシステムを保有しているわけであります。その精緻さには到底及ばないとしても、こうしたソフトで心と期待を持つております。

そしてこのようない生体メカニズムの解明の深化に伴い、私の思いがいつの日か正夢になることを祈念している次第であります。
(以上)

おいて努力を積み重ねて参るべきと考えます。
その2は「それでもやはり本年は大変な年だ」という想いであります。昨年末の政治状況、経済実体、社会動向、環境問題、国際情勢等はどれをとっても樂觀出来るものはなく、敗戦後何回か経験した問題山積みの新年に匹敵するきびしい年と思われます。誠に残念なり、私はその成り行きに大きな関心と期待を持つております。

一九九三年一月一日

迎春

<p>応用科学研究所 財団法人</p>	<p>電気評論社 株式会社</p> <p>近畿地方発明センター</p>	<p>高周波熱鍊 株式会社</p> <p>代表取締役社長 水馬 克久 先端技術で地域に奉仕</p>	<p>四国計測工業株式会社</p> <p>代表取締役社長 富田 盛夫 御目出度のある年でも樂観的、太平ムードだけでなく、常に「変革、激動、きびしさ、不透明、流動……」 のキーワードでその新年を表現し問題を提起して、その克服に尽力</p>
--------------------------------	---	--	---

明けましておめでとうございます。洛友会の皆様には今年も平和な日本の各地で清々しい新年をお迎えのことと拝察申し上げます。

私は、はからずも一昨年東京支部副支部長、昨年6月には同支部長を仰せつかり、本部の先生方および諸先輩のご指導と確立された会運営ルーチンにのつて「何とか大役を努めさせて頂いております。

その1は「ともかく平和な日本

今後も微力ながらその任を全うすべく努力致す所存であります。皆様のご支援、ご鞭撻の程何卒宜しくお願ひ申し上げます。

私は、はからずも一昨年東京支部副支部長、昨年6月には同支部長を仰せつかり、本部の先生方および諸先輩のご指導と確立された会運営ルーチンにのつて「何とか大役を努めさせて頂いております。

東京支部長 重本直三

新年のご挨拶と 支部活動の現況



明けましておめでとうございます。洛友会の皆様には今年も平和な日本の各地で清々しい新年をお迎えのことと拝察申し上げます。

私は、はからずも一昨年東京支部副支部長、昨年6月には同支部長を仰せつかり、本部の先生方および諸先輩のご指導と確立された会運営ルーチンにのつて「何とか大役を努めさせて頂いております。

その1は「ともかく平和な日本

今後も微力ながらその任を全うすべく努力致す所存であります。皆様のご支援、ご鞭撻の程何卒宜しくお願ひ申し上げます。

私は、はからずも一昨年東京支部副支部長、昨年6月には同支部長を仰せつかり、本部の先生方および諸先輩のご指導と確立された会運営ルーチンにのつて「何とか大役を努めさせて頂いております。

力いたして参りました。今年の問題の中では政治関係(会報の性格上)、コメントは避け、与野党とも更なる新芽が育つことを期待を除き他の点につきましては、上述の従来の対応と同様(単純でいさざか前時代的ですが)問題が多くければ逆にそれを克服した暁は更大きい前進が計れる筈であるぐらいの気構えで全力で対処していくしか仕方がないと愚考いたします。

その3は「子孫に役立つもの(将来のエネルギー)を残したい」ということであります。本件は私自身が高速増殖炉の開発に携つてゐるため感ぜざるを得ない命題であります。但し、最近アルトニウム問題がしばしばとりあげられますのがかなり片寄つた、あるいは専ら不安をあぶり立てる論調が多く日頃からそれをにがにがしく思つてゐるだけに本件について筆を進めるとあらぬ方向に走りかねませんので詳述は避けます。ただその1記載の平和な半世紀と同じ年数の今後約50年を経た21世紀半ば、即ち我々の孫達が現在の我々と同年代になつた時(世界的な人口爆発、所謂後進国、途上国の進歩によるエネルギー消費の増大、在来燃料の量的、環境的問題等のためきわめてきびしく述べた時代)のエネルギー確保のため、地道に、營々と高速増殖炉プラン(長期的

に見れば有限なウラン資源を最大限に活用出来るもので、幾つかのエネルギー対策の中の効果的な手法の開発に励んでいるかなりの同胞がいることをご報告し、よろしく御理解賜る様お願いする次第であります。

以上単細胞的な所感で紙面を汚したことをお詫びしますが、更にこの機会に東京支部の活動を紹介させて頂きたいと考えます。本年2月は支部発足満40年に当たりますのでその現況を記録として会報に留めるのもいささか意義があり、また各支部殿の何らかの御参考になれば幸いと存じます。

(1) 支部総会、

この制度は東京支部を運んできた諸先輩のお智慧によつて、20有余年の実績があり、役を経験されて洛友会活動理解を深めた方が毎年増えになり、またその中のかなに四役御退任後も年度幹事は評議員として支部活動をサポートし各種のご指導に戴いております。

2、
支部行事

石の体制を敷いてご指導賜わるおかげであり、この機会に厚く御礼申し上げる次第であります。

この制度は東京支部を運営された諸先輩のお智慧によるもので20有余年の実績があり、役員四役を経験されて洛友会活動に一層理解を深めた方が毎年増えることになり、またその中のかなりの方に四役御退任後も年度幹事あるいは評議員として支部活動を協力にサポートし各種のご指導に当つて戴いております。

(6) 趣味の会

(2)、幹事会および評議員会

年1回の評議員会(支部総会当日)および年2～3回の幹事会を行っております。また役員四役の会合は上記の他隨時行われます。(特に名簿広告募集年度は数回)

(3)、旅行会

年1回晩秋の頃に日帰りの旅行会を行います。平成3年度は11月24日(日)に足利の里へのバス旅行同4年度は11月29日(日)にヴァンテアン号に乗船し東京湾クルージングを楽しみました。

(4)、見学会

年1回の見学会も恒例となつております。平成3年度は電力中央研究所泊江研究所の見学会、同4年度は11月28日(土)に海上自衛隊横須賀基地の見学会(最新鋭ミサイル護衛艦「はたかぜ」他および潜水艦「なだしお」他に乗艦)を行いました。

(5)、講読会

原則として年1回実施することとして前記(4)の見学会をドッキングすることもあります。平成4年度は同5年初春に行う予定であります。

三九〇

として前記(4)の見学会をドッキン
グすることもあります。平成4年
度は同5年初春に行う予定であり
ます。

(2)、幹事会および評議員会
年1回の評議員会(支部総会当
日)および年2～3回の幹事会を
開き支部の運営につき御審議頂い
ております。また役員四役の会合
は上記の他隨時行われます。(特
に名簿広告募集年度は数回)

(3)、旅行会
年1回晩秋の頃に日帰りの旅行
会を行います。平成3年度は11月
24日(日)に足利の里へのバス旅行
同4年度は11月29日(日)にヴァン
テアン号に乗船し東京湾クルージ
ングを楽しみました。

(4)、見学会
年1回の見学会も恒例となつて
おります。平成3年度は電力中央
研究所泊江研究所の見学会、同4
年度は11月28日(土)に海上自衛隊
横須賀基地の見学会(最新鋭ミサ
イル護衛艦「はたかぜ」他および
潜水艦「なだしお」他に乗艦)を
行いました。

(5)、講読会

末筆ながら

行つております。一例をあげれば、ゴルフ会は舟田正男幹事(昭24卒)の御世話で年3回、小金井CC、相模原CC、桜ヶ丘CCなどの名門コースで開催されており、既に67回を算えております。

(7) グループ活動

卒業年度の近いクラスの集りで現在8グループが定着しております。即ち

- ・ 洛東会(昭2~7卒)
- ・ らつきょうう会(昭8~11卒)
- ・ 洛楽会(昭12~16・12月卒)
- ・ 東友会(昭17~20卒)
- ・ おぼる会(昭21~24卒)
- ・ 五九洛会(昭25~29卒)
- ・ 三十四会(昭30~34卒)
- ・ 東京デルタ会(講習所卒)

なお、大正年度御卒業の鶴友会は数年前活動休止、一方昭35~39卒の集りの発足準備中であります。

(8) 米寿、喜寿のお祝

毎年支部総会時、その年に米寿(数え年)および喜寿(満年令)を迎えた会員をお祝い申し上げ記念の贈物を御進呈すると共に、総会懇親会にて御元気なご挨拶を、戴いております。

念の贈物を御進呈すると共に、総会懇親会にて御元気なご挨拶を、
戴いております。

(8)、米寿、喜寿のお祝
毎年支部総会時、その年に米寿
(数え年)および喜寿(満年令)を迎
ながれに会員ごらん、日ごよげ記
の御世話で年3回、小金井CC、
相模原CC、桜ヶ丘CCなどの名
門コースで開催されており、既に
67回を算えております。

(7)、グレード活動
卒業年度の近いクラスの集りで
現在8グレードが定着しております。
す。即ち

洛東会(昭2~7卒)
 らつきょうう会(昭8~11卒)
 洛楽会(昭12~16・12月卒)
 東友会(昭17~20卒)
 おぼる会(昭21~24卒)
 五九洛会(昭25~29卒)
 三十四会(昭30~34卒)
 東京デルタ会(講習所卒)

故竹村清氏と私

常任幹事
近藤文治
(昭18卒)

近藤文治

(昭18卒)

洛友会が創立されたのは昭和27年11月で、創立30周年は昭和57年でした。当時はまだ京大の現役でしたが、既に応用科学研究所の理事長で、洛友会の常任幹事として、松田会長のご指導の下、30周年記念事業の全面的なお世話をしておりました。記念事業の中に、名簿の処理をコンピュータ化するという事業がありました。専門家の田丸教授を中心に委員会を設けて対応ましたが、事業の進展と共に実務をこなす人がなくて困却しておりました。丁度その時、上西先生から「竹村氏が会社を辞めて時間ができたので、応研あるいは洛友会で、何かお手伝いすることはないか」との話があり、渡りに船と、早速、コンピュータ化の仕事を手伝つて頂くことにしました。これが竹村、近藤コンビの第二幕の幕開けでした。

ではないと思われる程、凡帳面かつ正確で、コンピュータのことは全くの素人でしたが、仕事内容が竹村さんの性格に適していたこともあって、文字通り仕事に打ち込んだ毎日を過ごされました。そのお陰で、他には一人か二人のアルバイトを雇つただけで、遂に昭和58年12月、初めてのコンピュータ化名簿を会員の皆様にお届けできました。です。文部省賞賛状

事業の初期には、名簿を取り扱った経験のあるコンピュータ会社を選べば、会社のノウハウを利用して、仕事の量は多くとも、ある程度機械的に進められると思っていました。ところがこれが飛んでもない間違いで、組んだ会社の実力のせいもあつたと思いますが、大変厄介な仕事であることが間もなく判明いたしました。こうした時に、竹村さんから奉仕的な協力の大申し出があつたのです。今にして思えば、名簿のコンピュータ化の大事業は、専門家としての田丸教授の卓越したご指導と、竹村さんの比類なき事務能力とによって

会の常任幹事、事務局長として応
研の仕事の傍ら、洛友会のお世話
を全面的に担当して頂きました。
当時は、通常の会務の他に、30周
年記念事業があり、募金、記念講
演会の開催、記念誌の刊行、名簿
のコンピュータ化等々、山積する
事業の企画並びに推進に、快刀乱
麻のらつ腕を振るわれました。た
だ名簿のコンピュータ化事業だけ
は、前に述べましたように、余り
にも膨大でかつ田丸教授のご指導
との関係で、先生の研究室で事務
処理を行う方がより効率的である
ことから、他の業務から切り離し、
途中から竹村さんに引き受けで頂
いたのです。私は、私を支えて下
さる人に恵まれて本当に幸いでし
た。そして竹村さんが倒れられた
時、自分独りで洛友会の仕事をこ
なしておられたため、何がどうな
つているのか周りにはサッパリ
判からず、僅かに私が時々仕事の
進捗状況の報告を受けていたのが
唯一の情報でした。かと言つて、
名簿の発行を遅らせるわけにも行
かず、途方に暮れてしましました。

さて洛友会の30周年記念事業も無事終了し、その後、竹村さんが山口さんの跡を継いで、昭和61年5月、応用科学研究所の常務理事になられてからは、洛友会の常任幹事、事務局長として、本格的に洛友会のお世話を頂くようになります。竹村さんの応用科学研究所に対する大きな業績として、応研の改築があります。研究所創設以来80年に亘る歴史の中、特筆すべき事業であります。が、洛友会の直接的な仕事ではありませんので、ここでは省略させて頂きます。竹村さんが楷書の大変きれいな字を毛筆で書かれたことは、関係者の間ではよく知られています。応研の入口北側の側壁に「定礎」と筆太の字が彫られていますが、これが竹村さんの字なんです。字は性格を表すと言います。常に正しく力強く、凡帳面で曲ったこと

のコンピュータ化であつたこともあつて、まず名簿の整理に着手されました。一旦仕事を始めると徹底的にやらないと気が済まない質で、住所不明者の勤務先に電話して現住所を聞き出すことを徹底的に実行され、お陰で不明者の大変少ない立派な名簿になりました。

竹村さんの功績の一つです。不明者の調査にに関してこんなことがありました。不明の住所をあれこれと調べるうちに、出身地（あるいは本籍地）を探り当て、その村役場に手紙を出して調べて貰つたと言ふ、今ならプライバシー侵害と言われかねない事件がありました。聴いた私は、苦笑しながら行き過ぎにならないよう注意したのですが、竹村さんの徹底した仕事ぶりを示すエピソードとして今は懐かしい思い出となりました。

竹村さんは前任の会社、日本電子科学株式会社において、社内報の刊行を担当されていました。その経験があるものですから、洛友会会報の発行はお手のもので、一般には印刷所の仕事と考えられて

Digitized by srujanika@gmail.com

完成されたのであって、両氏のご業績を心から讃え、深く感謝申し上げる次第です。

こうした窮状を救つて下さったのが既に経験のある山口さんでした。それに竹村さんと同じ講習所出身

に妥協しない性格の面目躍如と言つた字です。私は入口を通る度に眺めて、竹村さんのこと思い出します。

いる割付作業(紙面の設計業務を自分の手で行なってから、原稿と一緒に作った割付表を渡しておられたのを知っています。「忙しいのにそこまでやることはないでしょ」とアドバイスしたのですが、最後まで押し通された。仕事に自信があり、徹底的に仕事をしないと気の済まない性格の現れと思ひます。

応研に竹村さんの補助として、矢木原工場長(現常務理事、洛友会常任幹事)を迎えてからは、応研の工場の方の仕事は、追々と高周波焼入れの専門家である矢木原工場長に任せ、空いた時間を洛友会の世話に注ぎ込まれ、その世話ぶりは益々徹底してまいりました。上述の会報の印刷所にしても、名簿のコンピュータ会社にしても、当方からの用事の場合はもちろんのこと、先方からの用事であつても、連絡があると直ぐ、自らの愛車を運転して先方へ出かけられるという身軽さでした。そうまで相手にサービスしなくてもゆづくりされたらと思ひましたが、ご本人にしてみれば、まだか、まだかとイライラして来客を待つよりは、車もあることだからこちらから出掛けた方が、仕事も早く済むし、氣も落ち着くとの勘定があつてのことだったと存じます。平成元年8月25日、あの日も恐らく同じよ

うな軽い気持ちで出かけられたのに、この日ばかりは天は余りにも無情でした。そして死後分かったことですが、こうした竹村さんの努力によつて、コンピュータ会社や印刷会社などに支払う金額が大変安く抑えられていたのです。と言いますのは、亡くなられてからは、先方から連絡して来て貰うようにしましたところ、忽ち値上げを言われ、十数年の長い間値上げしないことを自慢していた洛友会の会費ですが、ご承知のように、昨年とうとう値上げをせざるを得なくなりました。会費値上げの理由は、竹村氏死去に伴う事務費の高騰だけはありませんが、大きな理由になつてゐることは事実です。この一事をもつとして、竹村さんの洛友会に対する貢献が如何に大きかつたかが偲ばれます。

私と竹村さんとの付き合いは約50年の長きにわたります。本当に不思議なご縁につながった50年間でした。竹村さんもあるいはしみじみとあの世で思い出しておられるかも知れません。私は、今万感を込めて、「竹村さん長い間どうも有難う、どうか安らかに」と念じながら筆をおきます。

教室だより

氣系教室懇話会

長(?)は米村先生であることを申し上げます。その先生も昨年10月

12日88歳で他界されました。心よりご冥福をお祈りいたします。

恒例の秋の講習会並びに懇親会が去る10月16日(金)午後、電気総合館中講義室および総合人間学部(旧教養部)生協吉田食堂で開催された。毎年土曜日に開催してきたが、本年5月から国立大学も土曜日が休日となつたため金曜日となつた。

本年は、電気系教室の大先輩である日本電気(株)中尾英夫専務取締役(昭和30年卒業)、関西電力(株)橋本安雄常務取締役(昭和32年卒業)、川端昭名譽教授・富山県立大学教授(昭和28年卒業)の3方にご講演をお願いした。

この行事は第1部(13時~14時)これも恒例であるが、電気系の大学院修士、並びに学部の学生諸君に就職と進学の体験談をお願いした修士2回生室本純孝君(関西電力)多賀史江さん(ATR)、小林和淑君(日立)、また留学生として4回生のミリザ・モハマド・アジマル

12日88歳で他界されました。心よりご冥福をお祈りいたします。

話会 並びに懇親会

ベック君(日本IBM)からそれぞれ就職先を決めるまでの経過、会社見学のし方などについて報告して頂いた。また4回生の川野真穂君から大学院修士課程への入学試験の勉強法について話して頂いた。

続いて14時からの第2部は先輩からのお話しを伺った。最初は中尾英夫専務取締役から、「デイス事業発展の中での経験」と題して、現在世界で年間7兆円の産業である電子デバイスが kakoも急速に発展してきた理由と特徴を述べられた後、今後2000年までにどの様に発展するか、特に半導体メモリーやプロセッサーについての見通しが述べられた。先手必勝であることから、開発スピードを如何に上げるか、及び創造的性が大事であることが強調された。また米国との競争に関連して、M



子を運転して先方へ出かけられる
という身軽さでした。そうまで相
手にサービスしなくともゆっくり
それたらと思いましたが、ご本人
にしてみれば、まだか、まだかと
ドライバーして来客を待つよりは、
もあることだからこちらから出
掛けた方が、仕事も早く済むし、
も落ち着くとの勘定があつての
とだつたと存じます。平成元年
月25日、あの日も恐らく同じよ

和と今村さんとの付き合いは、結婚してから50年になります。本当に不思議なご縁につながった50年間でした。竹村さんもあるいはしみじみとあの世で思い出しておられるかも知れません。私は、今万感を込めて、「竹村さん長い間どうも有難う、どうか安らかに」と念じながら筆をおきます。

ある日本電気(株)中尾英夫専務取締役(昭和30年卒業)、関西電力(株)橋本安雄常務取締役(昭和32年卒業)、川端昭名譽教授・富山県立大学教授(昭和28年卒業)の3方にご講演をお願いした。

イス事業発展の中での経験」と題して、現在世界で年間7兆円の産業である電子デバイスが早くも急速に発展してきた理由と特徴を述べられた後、今後2000年までにどの様に発展するか、特に半導体メモリーやプロセッサーについての見通しが述べられた。先手必勝であることから、開発スピードを如何に上げるか、及び創造的、革新的デバイスの開発が今後の課題であり、それには知識より創造性が大事であることが強調された。また米国との競争に関連して、M

となどが述べられた。デバイスの開発競争には終わりはないことから、若い学生諸君の21世紀を担う活躍を期待すると結んで講演を終えられた。

次に橋本安雄常務取締役から「電気は空氣か」という題でご講演頂いた。同氏は関西電力に入社されて以来35年間、主に、一般消費者に電気を空氣と思って使ってもらえるよう、停電のない電力供給を目指した仕事をして来られたが、まず停電にはKW不足(発電所不足)、KWH不足(燃料不足)などの構造的原因、電力ネットワーク崩壊などの偶発的原因、およびローカルな原因が考えられることを述べられた後、KW不足としては冷暖房に電力の使用が増加して、夏、冬に2つのピークができること、また定期保守のために夏以外の季節に発電所を停止しなければならないため年間を通してKW不足があること、また渇水や、中東動乱、温暖化の原因として、炭酸ガスの放出が問題となっているが、これが今後日本の電力会社もその対策をこうしていくなければならない大きな問題であることが述べられた。

また国内の九電力会社は燃料費

の節約、予備力を共通にできること、周波数の安定化がはかれることなどの理由から、電力システムをお互いに連繋して運用しているが、事故の波及が起りうる。この原因によるシステムの停止を起さないようにするため、最近では日本も含め世界的に直流送電を仲介にした連繋が広く行われている。そのため電力業界では、いわゆる強電の技術の外にパワー・エレクトロニクスの技術が益々必要となってきたことが述べられた。

最後に川端昭名譽教授から「富山県立大学に奉職して」という題目でお話を伺った。富山県立大学は平成2年4月に開校され、電気、機械の2学科で各学科80名の定員であること、今年から生物工学研究センターが出来たこと、またこの大学は、昭和37~38年頃からある県立技術短期大学を母校として作られたことなどが紹介された。

先生は、富山は雪の多い寒いところであるという先入観念で同大に赴任されたが、それほど寒くもなく、雪も少なく、夏もあまり暑くなく、住み易いところであると思つてゐる。それを数字で明らかにするべく統計を調べられたが、人口密度が低いこと、持ち家比率、1戸当たりの住宅面積、道路整備率、

1人当りの電力使用量、清酒消費量、高校進学率等が全国1位であること、女性の就業率や高齢者の就業率も全国で高い方であることなどが明らかになった。年間日照のない日の日数も全国1位と数字の上では必ずしも住み易さを表す結果にはなっていないことなどが紹介された。

紹介された。

また県立大学の学生数は、富山県内から50%、それ以外の県から50%であり、それらは関西、中部地区出身者が大部分であること、しかしながら全体としては東京指

向で、航空機の便も大阪からはなく、教官も機械系の教授は全て東大出身であるとのことです。ただ電気系は幸い東大出身者はなく、京大、阪大、名工大出身者等で占められている由である。このあと、富山県立大学を紹介するビデオを見せて頂いた。

第3部の懇親会は生協吉田食堂にて、途中渡航もなく快適に飛ばしたため、予定外の師崎の手前大井港にて、弘法大師ご上陸跡を訪ねました。全国に弘法伝説は多くありますが、ここは大師が上陸されたというところで、聖崎と名付けられ、海中(当時は陸であった)に大師像が建立されています。この伝えから知多島及び周辺2島(篠島と日間賀島)に新四国88ヶ所のお寺があり、和やかな楽しい懇親の場を持つことができた。

林宗明名譽教授からご挨拶と乾杯のご発声を頂き、予定の8時まで和やかな楽しい懇親の場を持つことができた。

中部支部 家族同伴秋の例会

(渥美半島に歴史とロマンを訪ねる)

11月14日(土)中部支部秋の例会は、絶好の秋晴れに恵まれ8時40分、名古屋駅前を出発、名古屋高

速・知多中央道経由、知多半島の先端師崎に向かいました。

参加者20名中、名古屋発は17名、



師崎港

で

本多

静雄

前支

部長

(大

13年卒)

が参

加

、フエリー

船

上

は

、

では

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、



候に恵まれ小春日和の一日友人・知人と楽しい一日を過ごし来年の再会を楽しみに帰途につきました。
（辻村順一昭46卒記）

新エネルギー実験センターでは、途中大阪からの組は酒どころ御影にある白鶴酒造の資料館に立ち寄り昔の酒づくりの仕組みを見学するとともに、絞りたての新酒のき酒を楽しみました。

新エネルギー実験センターでは、地球環境問題などから期待が高まっている太陽電池や燃料電池が世界最大規模で設置されており、それらが広く普及した場合の問題について研究が行われています。普及には一層のコスト低減が必要であるが、技術的にはほぼ見通しがつきつつあり、将来は補完的な電源として期待できるのではないかとのことです。

今年は例年より少し時期が遅くなり寒さが心配されました。天



第58回関西洛友会 ゴルフ競技会報告

大久保昌利（昭60卒）

第58回関西支部ゴルフ競技会は、平成4年10月25日（日）武庫之台ゴルフ場にて開催された。

参加者は、西村正太郎氏（昭16卒）、大嶋幸一氏（昭19卒）、小沢勝氏（昭19卒）、事務局からは藤島啓氏（昭25卒）など30名で、卒業年次を離した組合せで8組が競技した。

結果は、
優勝 河崎達夫（昭34卒）
2位 三谷鐵男（昭38卒）
3位 黒田重信（昭41卒）

新エネルギー実験センターでは、河崎達夫幹事は89、三谷鐵男幹事が86、と好成績で優勝、準優勝された。

次回は第59回は、平成5年5月9日（日）次々回第60回は、平成5年10月3日（日）に、武庫之台ゴルフ場にてそれぞれ開催の予定です。

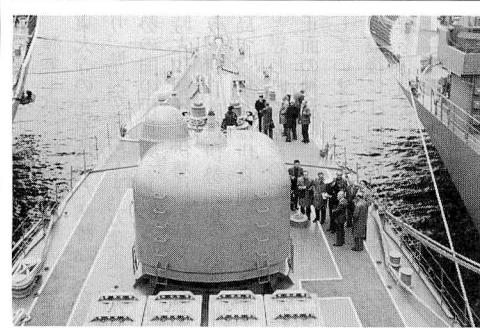
なお、藤島啓副支部長の発案で、

次回からグランドシニア杯を設けますので、多数のご参加をお願いします。

（世話役関西電力（株）06-441-8821）系統運用部大久保まで

次回からグランドシニア杯を設けますので、多数のご参加をお願いします。

（世話役関西電力（株）06-441-8821）系統運用部大久保まで



東京支部、恒例の見学会と旅行会をそれぞれ11月28日（土）と11月29日（日）に実施しました。

見学会では、防衛庁OBの松崎充宏氏（昭和41年博士）の御高配により、海上自衛隊横須賀基地の護衛

艦「あさかぜ」「はたかぜ」ならびに潜水艦「せとしお」「たけしお」「なだしお」を見学させていただきました。

当日は若干薄ら寒くはありましたが、100名を越す盛会となりました。なかなか見学の機会のない護衛艦と潜水艦の中を案内していただき、最新鋭の設備に感心しました。

また、海軍時代の経験者の方々にとっては懐かしさもひとしおのようでした。

旅行会は、今年度は例年と趣向を変えまして、これまでも希望の多かつた東京湾一周遊覧を実施いたしました。見学会の翌日ということもで参加者が減るのでと心配いたしましたが、これも例年を超える70名以上の盛会となりました。

11時に竹芝桟橋に集合し、レス

トランシップ「ヴァンテアン号」

東京支部 見学会と旅行会

写真は見学会「護衛艦あさかぜ」と旅行会の皆様です。
（総務幹事谷口治人昭48卒記）



にて、快晴微風の中、昼食と東京湾クルージングをお楽しみいたしました。食事は立食形式ではありました。船内やデッキには椅子も充分に用意されており、あちこちで談笑の輪がひろがっていました。予定通り午後1時半には竹芝桟橋に帰港し散会となりました。





平成2年5月のクラス会で申し合せた通り、平成4年6月11日、12日に北海道情報大学（理事長 松尾三郎）及び関連施設等の見学を兼ねてクラス会を開催した。

参加者は（東）松尾、平野彰、水野、伊藤、副島夫妻、皆川夫妻、（西）大谷、片岡、近藤、佐々木、山口、小林夫妻、山本健夫妻の17名となつた。

当日午後1時、札幌市郊外の江別市に創立された北海道情報大学の玄関ホールに集合、大学に隣接しているS C C 国際交流センターの宿泊施設に全員が旅装を解いた。

このセンターは大学の客員教授の研修、宿泊、海外の情報通信技術研究者との交流、研修、宿泊等に利用される一流ホテル並の素晴らしい施設である。北海道の新緑溢れる新鮮な眺めと空気を一同満喫し、ロビーで少憩の後、スケジュールに従つて見学させて頂いた。

北海道情報大学・平成元年に創立され、経営学科と情報学科の2

学科で高度情報社会にふさわしい経営学と情報処理技術を教育し、来年度第1回新卒者を世に送り出すことになっている。潰刺とした若い男女学生の間をぬつて学内諸施設を見学させて頂いた。受験生の偏差値は北海道で一番高いと伺つた。

北海道情報技術研究所・平成2

年3月に大学に隣接した場所に建設された。郵政省からテレコム・リサーチパークとして全国で3番目の認定で、特に民間主導型のテ

昭和13年卒東西合同クラス会

レコム・リサーチパークとして全国から注目を集めていた施設である。通信技術と衛星通信教育システムの研究、実践拠点としての主・副調整室、大スタジオ、送受信設備室等を見学。

株式会社情報通信システム研究所・高度個別型學習情報システム確立をめざして真剣に取り組んでいる各研究室を見学させて頂き敬服させられた。ここにはクラスメートの水野君が監査役として勤務中で今回のクラス会の準備、実行に当つてくれた。

全見学コースを終つて、大会議室で木下学長以下各担当役員から総括説明会があつた。

約3時間に及ぶ強行スケジュ

ルであつたが一同は喜寿を過ぎた

連中とは思えないほどの元気さに

は驚くと共に安心もした。

夕食は国際交流センター1階の大食堂でパーティーが催された。

翌12日（金）は朝食後ゴルフ組と

観光組とに分かれ、ゴルフ組は北

海道電子計算専門学校の小原校長

の案内で、小林、山口、伊藤が真

駒内カントリークラブに出かけた。

北海道の雄大な景色を眺めつつ一

ラウンド楽しくプレー出来た。小

林君の安定したプレーと山口君の

ロングヒッターには舌を巻いた。

北海道の海、山の特別料理がテ

ーブル一杯に並べられ、一同おい

しく、楽しく食べ且つ飲み、2年

振りの元気な再会を喜び合つた。

宴だけなわとなり大谷君が一同

を代表して今日眼のあたりに拝見

した雄大なスケールの情報大学並

びに諸施設を創設された松尾理事

長の偉大なる功績を称え且つ今回

のクラス会に対する絶大なる支援

に対し謝辞を述べた。飲む程にお互いに昔の思い出を語り合い誠に楽しいひと時であつたが、翌日のスケジュールもあり一時間間を惜しみつて散会とした。

松尾理事長より、北海道の町村

牧場（町村金吾元北海道知事の実兄が経営する牧場で世界の最優良乳牛を輸入して品種改良を計つて）で造られたという特製バターやおみやげとして賜られ一同感謝感激であった。

（写真説明、S C C 国際交流セン

ターにて）

（水野、伊藤記）



小樽市は近年観光の街として再生し、昔の古ぼけた赤煉瓦の倉庫が立ち並ぶ小樽運河の跡に沿って散策道が整備され、賑わっている。昔ニシン漁の魚網の浮きを作った技術を生かしたガラス工芸が盛んだ。有名な北一ガラス、オルゴール館、ベネチヤ館などを観光した。再びバスに乗りJR札幌駅にてゴルフ組と合流し、又の再会を約束して解散した。実際に楽しい2回目の東西合同クラス会であった。

翌12日（金）は朝食後ゴルフ組と観光組とに分かれ、ゴルフ組は北海道電子計算専門学校の小原校長の案内で、小林、山口、伊藤が真駒内カントリークラブに出かけた。北海道の雄大な景色を眺めつつ一ラウンド楽しくプレー出来た。小林君の安定したプレーと山口君のロングヒッターには舌を巻いた。北海道の海、山の特別料理がテーブル一杯に並べられ、一同おいしく、楽しく食べ且つ飲み、2年

市のシンボル時計台を観光し近くの大通公園を散策した。再びバスに乗り札幌高速道路を通つて小樽へ、有名な大和屋すし店に入つて、すしをほおばりながら昔話や内緒のエピソードを語り合つて楽しんだ。

小樽市は近年観光の街として再

生し、昔の古ぼけた赤煉瓦の倉庫

が立ち並ぶ小樽運河の跡に沿つて

散策道が整備され、賑わっている。昔

ニシン漁の魚網の浮きを作った技術を生かしたガラス工芸が盛んだ。

有名な北一ガラス、オルゴール館、ベネチヤ館などを観光した。

再びバスに乗りJR札幌駅にてゴルフ組と合流し、又の再会を約束して解散した。実際に楽しい2回目の東西合同クラス会であった。

（写真説明、S C C 国際交流センターにて）

（水野、伊藤記）

共振会（昭和16・3卒）

秋季信州旅行会報告

平成3年5月23・24日開催の50周年京都大会の席で、次回は上信越を中心とする遠出と決まり、本年2月以来、関東・関西各支部の数次に亘る検討の末、5月に最終計画が決定された。待望の秋醸11月4日（水）午後1時半、長野駅前に集合、観光バスで出発し、善光寺に到着、案内人の説明で、昨年ご開帳時の結縁卒塔婆標柱、山門と鳩字の額、本堂内陣参拝と戒壇巡り【注】暗闇の中を前人の背中や腕に掴まりながら、瑠璃壇の下を一周する途中で「極楽のお鏡前」に触れて、御本尊様と佛縁を結ぶ珍しい作法】の後、再びバスで戸倉上山田温泉の千曲館に到着。

今回の参加者は同窓20名（関東11名、関西9名）夫人8名と孫娘1名の計29名である。入浴の後、宴席「あすか」にて、記念撮影着席し、名簿会計報告等が配られ、昨年鬼籍に入られた香川揚一、副島民彦両君を偲び、ご冥福を祈つて黙禱、欠席諸氏の近況報告の後開宴する。玉井君得意の学歌合唱、歓談歌舞若さを取り戻して交歎

し、宴後自室で談話開基など。

翌5日朝8時40分出発、バスには新たにヘテランガイドを迎える曲川を渡り、南へ約15km塩田の里に安樂寺と朴落葉散り敷く八角三重の塔、天台宗常楽寺と石塔を訪れ、紅葉の池庭に憩う。

実銀杏かえでの紅が堂に映ゆ折から空青く澄み、寺の石段に参詣客続き、此地が「信州の鎌倉」と呼ばれるのも宜なるかなと感じた。

次に東6kmの上田城址に寄る。真田昌幸、幸村のもと秀忠の軍を迎えて6日間持ちこたえた九万五千石の城の資料館を見学。

垣向かいはしゃぐ園児や秋日和

11名、関西9名）夫人8名と孫娘1名の計29名である。入浴の後、宴席「あすか」にて、記念撮影着席し、名簿会計報告等が配られ、昨年鬼籍に入られた香川揚一、

副島民彦両君を偲び、ご冥福を祈つて黙禱、欠席諸氏の近況報告の後開宴する。玉井君得意の学歌合唱、歓談歌舞若さを取り戻して交歎



小林夫人、嘉田孫令嬢、石井夫人の
計29名

（小林、岡本）記

お詫びと訂正

洛友会会報(161号)10月号

頁6スポーツ大会報告の成績、野球京大14→13阪大誤→京大14→3阪大(正)に訂正方。

以上謹んで訂正致します。

編集後記

平成4年度洛友会主要ニュース

○第3代洛友会会长に大谷泰之氏が就任。

○若林二郎教授、加藤進教授のご退官。

○奥村浩士(41卒)吉田進(46卒)助教授が教授に昇任。

○平成4年度教室主任に就任。

電気工学教室　卯本重郎教授

電子工業教室　吉田　進教授

○会報4月号巻頭言は笹岡健三東京支部長に投稿いただきました。

当号(1月号)の年頭所感は関西、東京両支部長様にご投稿賜りました。厚くお礼申し上げます。

年頭に当り今年度の洛友会主行事は2月6日(土)京都タワーにて開催予定の役員会(本部役員

および9支部長)で計画されます。が、今年の総会は東京支部と合同で東京目黒の八芳園で開催予定です。主要案件は役員改選、名簿発行(平成六～七年用)、広告募集等です。会報発行に一般寄稿が少なくて大変苦労をしています。会報は会員の自發的編集ですので各支部の各種行事報告等、寄稿者のご斡旋をお願い申し上げると共に、会員の皆々様も同窓会、クラス会等の報告と隨筆、和歌、俳句などを積極的にご寄稿賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成4年度会費未納の方3ヶ月までに振込み賜りますようお願いします。

(事務局長矢木原邦雄記)

計報

講大13　辻本栄治　4・10・7

昭5　野田忠一郎　4・11・5

昭8　蓼原泰彦　4・5・27

昭9　萱島満　4・9・11

昭10　和久利保　4・9・29

昭16　副島民彦　4・9・5

昭21　木戸正夫

昭27　宇尾光治　4・10・16

昭36　小石原　進　4・8・16

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。